

日サ協発第 180091 号  
2018 年 5 月 17 日

関係各位

公益財団法人日本サッカー協会

国際サッカー評議会(以下、IFAB)から 2018 年 4 月 21 日付回状第 13 号をもって 2018/19 年の競技規則改正について通達がありました。通達自体の日本語訳は、下記のとおりです。

2016 年に競技規則の大きな改正があり、昨年はその主だった改正の最終段階として位置付けられました。今回の改正では、主に言葉や表現の整合性が図られたことから、競技に直接関わる規則の改正という点では非常に少ないものでした。しかし、6 月に開幕する FIFA ワールドカップロシア大会に用いられることが決定した「ビデオアシスタントレフェリー(VAR)」が競技規則に加わったことから、それに伴う加筆や必要な変更等がありました。

別紙 1「競技規則改正 2018/19(主な改正と明確化の概要)」を作成しましたので本通達と共に、各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるようお願いいたします。

なお、これらの改正等は、国際的には 2018 年 6 月 1 日から有効となりますが、これより前に開始される競技会において即座に適用することが認められたため、2018 年 5 月 26 日に開幕する「天皇杯 JFA 第 98 回全日本サッカー選手権大会」にその一部が適用され、その他、日本サッカー協会、各地域/都道府県サッカー協会等が主催する他の試合については、別紙 2 のとおり適用されます。

## 第 132 回国際サッカー評議会(IFAB)年次総会における決定について

第 132 回国際サッカー評議会(IFAB)年次総会が、2018 年 3 月 3 日、ジャンニ・インファンティーノ FIFA 会長が議長となり、チューリッヒの「ホームオブ FIFA(FIFA 本部)」において開催された。年次総会の主たる決定及び議事詳細は、下記の概略のとおりである。

### 1. 2017/18 競技規則

年次総会は、この数年大きな改正があったものの、競技規則が十分に受け入れられたことを喜ばしく感じている。また、各国サッカー協会が、特にグラスルーツ、ユース、年長者および障がい者のサッカーにおいて、より多くの交代要員や一時的退場(シンビン)を用いることで、より高い弾力性をもって競技規則の修正にポジティブな対応を取っていただいていると認識している。

### 2. 2018/19 競技規則

多くの競技規則改正が承認された。改正された文章は、この回状に添付された 2018/19 競技規則改正にかかる文書、あるいは、前述の IFAB ウェブサイトを参照していただきたい。この文書には、ビデオアシスタントレフェリー(VAR)に必要なすべての変更も含んでいる。

これらの改正は、2018 年 6 月 1 日から有効となる。ただし、これより前に開始される競技会においては、即座に適用する、あるいは、遅らせて、次シーズンの競技会開始前までに導入することも可能である。

公益財団法人 日本サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷 3-10-15) JFA ハウス  
Tel.050-2018-1990 Fax.03-3830-2005  
www.jfa.jp

**a. 第3条-競技者:延長戦における交代要員の追加**

この2年間、世界中の多くの競技会において、延長戦における交代要員追加の実験が行われ成功裏に終了した。これによりIFAB年次総会は、競技会が導入を希望するのであれば、試合が延長戦に入った場合、チームが認められたすべての交代要員を使い切っている、いないにかかわらず、さらにもう1人の交代要員が使えるかどうかについて競技会規定に定めることができることを承認した。

交代要員を追加できることによって、延長戦において試合を決着する攻撃のチャンスを増やす(これによってペナルティーマークからのキックに至らないようにすること)ことや疲労による負傷の可能性を軽減することができることになる。

**b. 第4条-競技者の用具**

**i. テクニカルエリアにおける電子通信システム:**

テクニカルエリアに向けて、また、テクニカルエリアからの通信を制限することはおおよそ不可能であるので、これらの通信に伴う行動に焦点をあてていくこととする。これによりチーム役員は、テクニカルエリアにおいて、戦術的またはコーチングあるいは競技者の保護や安全にかかる目的に限り、小型で、持ち運びでき、手で携帯できる程度の機器の使用が認められることになった(使用が認められる機器のリストは、第4条に掲載される)。認められていない機器を用いたり、不適切な行動を取ったチーム役員はテクニカルエリアから退席を命じられる。

規律委員会に対して、この改正の原理原則の適用を求めるものである。チーム役員がテクニカルエリアから退席を命じられたり、テクニカルエリアに入ることを禁止された場合でも(その後の試合での)テクニカルエリアへの通信を禁止しないよう求める。

**日本協会の解説**

今回の改正により、チーム役員は指定された目的に限り、電子通信機器の使用が認められたことから、その機器を使用してテクニカルエリア以外(観客席、または競技場外)と通信することが可能となりました。さらに、本条改正の原理原則に基づきテクニカルエリアから退席を命じられたチーム役員のテクニカルエリアへの通信については、当該試合およびその後の試合でテクニカルエリアに入ることを禁止された場合でも、通信することが妨げられるものではありません。

チーム役員は、この改正が「テクニカルエリアからの通信を制限することはおおよそ不可能」という状況から「戦術的またはコーチングあるいは競技者の保護や安全にかかる目的に限り通信が認められた」ということ、加えてテクニカルエリアでは常に「責任ある態度で行動しなければならない」ことを再認識することが求められます。

**ii. 電子的パフォーマンス・トラッキングシステム(EPTS):**

FIFAは電子的パフォーマンス・トラッキングシステム(EPTS)に関する品質プログラムを導入し、システムが安全で確実に通信ができるようにする。これにより、試合中であってもEPTSからのデータがテクニカルエリアで受信できることになる。

**c. 第 12 条-ファウルと不正行為: DOGSO と SPA**

2016 年の IFAB 年次総会は、競技者が「決定的な得点の機会の阻止」(DOGSO)の反則を自分のペナルティーエリア内で犯した場合、反則がボールにプレーしようとした結果犯されたものであれば、退場(レッドカード)ではなく警告(イエローカード)とする実験を 2 年間世界的に行うことを承認した。2017 年の年次総会では、この原則を拡大し、「大きなチャンスとなる攻撃の阻止」(SPA)の反則をボールにプレーしようとした結果ペナルティーエリア内で犯した場合、警告としないとした。

実験に関する素晴らしいフィードバックに鑑み、既に競技規則に盛り込んでいたこの 2 つの状況に関する文章を確定した。

**d. 第 131 回年次総会以降に明確化した競技規則の概要と確定**

年次総会は競技規則の明確化に関して、(2017 年 9 月 25 日付)回状第 11 号で通達したが、この内容を正式に承認した。

**e. その他の改正及び明確化**

その他の競技規則改正および明確化が承認された。主なものの概要は、次のとおり。

**競技規則の修正: 一時的な退場-(運用方法 B)**

2 回の一時的退場に加え一時的退場以外のイエローカードが示された競技者は、交代あるいは入れ替わることができない。

**第3条-競技者**

競技性の高い試合に設けられている様々な制約との整合性を保つと共にテクニカルエリアの座席数不足を防ぐために、国際「A」マッチの親善試合では、氏名が届けられる交代要員の最大数を 12 人に限ることになった。

**第5条-主審**

試合中の審判員によるカメラの使用および着用は、認められないことになった。

**第7条-試合時間**

飲水の時間が長時間のコーチングや CM のための時間になってしまうのを避けるため、1 分間に制限した。この制限は、医療上の理由による「クーリングブレイク」には適用されない。

**第 12 条-ファウルと不正行為: DOGSO および SPA**

- ・ (あまり起こりえないが)人にかみつくことを直接フリーキックおよび退場となる反則に加えた。
- ・ ボールに物を投げつけることや持っている物でボールに触れることをハンドの反則ではなく、新しく反則の 1 項目とした。
- ・ ゴールキーパーがボールをつかむ、保持する、止めようとする、あるいは、ボールを「手で逃が」そうとした場合は、その後ボールを拾い上げることができ、反則として罰せられないこととした。
- ・ 主審が決定的な得点機会の阻止のファウルに対してアドバンテージを適用した場合、得点になる、ならないにかかわらず、懲戒措置は警告となる。得点とならなかった場合でも退場とならない。

### 第15条-スローイン

競技者は、立ってスローインを行わなければならない。座って、また、膝立ちでスローインすることができない。

### 3. ビデオアシスタントレフェリー(VAR)

年次総会は、ビデオアシスタントレフェリー(VAR)の2年間の実験について詳細な報告を受けた。(2018年3月7日付)回状第12号で通達したとおり、VAR手順や実施要件を完全に遵守し、また、厳格な承認プロセスを踏む必要があるが、競技会で使用することができるように、VARについて2018/19年競技規則に規定した。なお、ビデオアシスタントレフェリーを用いる場合は、IFABとFIFAから文書による承認を得る必要がある。

### 4. Play fair! (公平・公正にプレー！)

2017年IFAB年次総会で承認された「Play fair! (公平・公正にプレー！)」戦略には将来の競技規則改正の可能性について概ね示されているが、今年の年次総会では、これらにかかるコンサルティングや早期のテスト実施に関する報告が行われた。様々なカテゴリーのテストやディスカッションについて、いろいろなアイデアが寄せられた。特に、そのうちの幾つかについては、今、より広範囲にわたって実施すべきであると合意された

次の実験に参加することを考え、情報を入手したい各国サッカー協会や競技会は連絡をしていただきたい。

- ・ ペナルティーマークからのキックの AB-BA 方式-同じチームが常に「2番目」のキックを行わないようにすることによって、より公平・公正な方式を考える。
- ・ テクニカルエリアのチーム役員による不正行為にレッドカードやイエローカードを示す-テクニカルエリアにおいて不適切な行動を取ったチーム役員に対して主審がどのような懲戒処置を取ったのか明らかにする方法である。
- ・ 守備側競技者は、ゴールキックや守備側チームによるフリーキックでボールがペナルティーエリアを出る前であってもボールをプレーすることができる-時間の浪費を軽減させると共により積極的な試合の再開方法を作り上げることができる。
- ・ 交代して退く競技者は、最も近い境界線から競技のフィールドを出る(セキュリティの観点を考慮する必要があるが)-負傷した競技者はこの方法で競技のフィールドを出なければならないが、これと同じ考え方を適用し、時間の浪費を軽減する。

IFABは、競技規則がより良いものになって、グラスルーツから国際試合に至るまで、すべてのレベルのサッカーが公平・公正で、参加しやすく、楽しいものになるような多くのサッカーに関わる人々からの情報提供や援助に感謝する。IFABは、これからも引き続き、競技規則がサッカーの公平・公正さや競技のフィールドにおける高潔性を保全できるよう、世界中広く意見を伺っていく。

みなさまが関心をお寄せいただき、感謝申し上げます。何か質問や不明な点があれば遠慮なくお問合せいただきたい。IFABの住所と連絡先は、以下のとおりである：

国際サッカー評議会  
事務局長 ルーカス・ブラッド

## 日本協会の解説(2018/19 競技規則改正日本語版における用語の整理)

### ① 「競技のフィールド(The Field of Play)」と「フィールド(Field)」

今回の改正により「ビデオアシスタントレフェリー(VAR)」が競技規則に加筆され「Law1 - The Field of Play(第1条-競技のフィールド)」に、レフェリーレビューエリア(RRA)という表記が新たに加われました。RRAは主審が「フィールド」でプレーをレビューする場所と定義され、次のように設置することになっています。

- ・ 競技のフィールド外で目に見える場所

現在使用しているサッカー競技規則 2017/18 日本語版の 31 ページで「競技のフィールド(以下、フィールドという)は長方形で、危険が. . .」と表記しています。しかしながら、前述のようにRRAは「主審がフィールドでプレーをレビューする場所」で、フィールド上のうち「競技のフィールド」外に設置されます。これにより、これまでのように「競技のフィールド」を単に「フィールド」と表現すると混乱が生じることから、その意味するところにより、次のように異なった表現とすることとしました。

#### 競技のフィールド

- ・ 競技者が実際にプレーを行う「タッチラインとゴールラインに囲まれたエリア」  
フィールド
- ・ 「競技のフィールド」やその周辺(RRA、副審の走るタッチライン外の場所など、サッカーをプレーしたり、運営するために必要な平面

### ② 「交代する(Substitute)」と「入れ替わる(Replace)」

競技規則(英語版)にある「Substitute」と「Replace」についての日本語訳、そしてそれぞれの意味について、次のとおり再整理しました。

「Substitute ⇒ 交代する」

- ・ 競技者が交代要員と交代する

「Replace ⇒ 入れ替わる」

- ・ 例えば、ペナルティーマークからのキックの最中にフィールドプレーヤーとゴールキーパーとが入れ替わる